

PRTR 第 1 種指定の界面活性剤 環境リスク評価



日本石鹼洗剤工業会は、PRTR 法の第 1 種指定化学物質に指定されている 4 種の界面活性剤について環境リスク評価を実施しました。都心の河川水(多摩川、荒川、江戸川、淀川)の表層水を定期的に採取し、濃度を計測した結果、いずれも水生生物に影響を及ぼすとされる数値を下回り、環境に対するリスクが極めて低いことを確認しました。

家庭用洗剤等に使用される界面活性剤は環境への排出量が多いものの、生分解性がよく、下水処理場や河川などでの微生物による自浄作用によりほとんどが分解・無害化されることが報告されており、今回のリスク評価結果はそれを裏付けることになりました。

今回のリスク評価を行ったのは、同工業会で取り扱っている、LAS(20,201t)、AE(21,396t)、DHTDMAC(235t)、AO(1,545t)、(カッコ内は今年 3 月の PRTR 公表データによる 2002 年の排出量)と呼ばれる 4 種の界面活性剤で、いずれも製造事業所からの排出量は少なく、大半は家庭からによるものであり、各物質の最大濃度値は予測無影響濃度値に比べて 1/100 ~ 1/3 程度でした。

今後、同工業会は PRTR 法の規制対象となっていないものの生産量が多い約 10 物質についてもリスク評価を実施する予定です。

資料:2004 年 5 月 28 日付 化学工業日報

機器分析箇所 金子 圭介

事業内容

- | | |
|----------------------|-----------------------|
| 1 環境管理に伴う調査・測定・化学分析 | 5 土壌汚染対策法に基づく土壌汚染状況調査 |
| 2 ダイオキシン類に係る濃度計量証明 | 6 労働衛生管理に伴う作業環境測定 |
| 3 ビル管理に伴う水質検査・空気環境測定 | 7 トータルサニテーション管理 |
| 4 水道法第 20 条に基づく水質検査 | 8 委託試験・研究・開発 |

